

史上最多となる 21 チームの応募を受けた セイルオン JYMA 選抜大学対抗 & U25 マッチレース

慶応大学 「陸の王者」 優勝



RESULT (参加 12 チーム)

- | | |
|------------------------------|----------------------------------|
| 1 位 陸の王者 (杉若雄山) | |
| 2 位 若鯨 (内貴航路朗) | |
| 3 位 Kyushu University (鈴木英心) | |
| 4 位 GRADs (蒔田翔吾) | 5 位 Meijo unv. J/24 class (小林空翔) |
| 6 位 Le lien (秋津竜太) | |
| 7 位 KUOSC (藤井琢光) | 8 位 GATGAT (竹内啓太) |
| 9 位 海の王者 (須田智也) | |
| 10 位 仰秀 (古川諒真) | 11 位 ゼウス (飯田 滯) |
| 12 位 Team Nudge (工藤海翔) | |



13 回目の開催を迎えたセイル・オン JYMA 選抜大学対抗&U25 マッチレース（以下、U25 マッチ）。若手セーラーをキールボート界へつなぐ架け橋として生まれたこの大会、第 1 回から一貫する特徴は、毎回多様な背景を持ったチームが参加する点だ。

今回もディンギー学連からは史上初の全日本インカレ総合 5 連覇を成し遂げた早稲田大学や、外洋学連王者の神戸大学オフショアセーリング部などの国内の若手エリートレーサー達や、全日本の舞台に立てなかったレーサー、学連ヨット部に所属していないセーラーまで、幅広い層の選手が集まった。

今大会には出場枠 12 に対して、過去最多となる 21 チームが応募。全国的に若手セーラーの減少が嘆かれる中で、この大会への応募数は継続して増加傾向にある。大きな理由は、U25 マッチには多角的な“ヨットの楽しさ”があり、参加者がどんな楽しさを求めるかを自由に選択できることにあるのだろう。

同期や気の合う仲間と一緒に、大きなヨットを動かすセーリングの新鮮さを満喫していたり、「日本一」の座をかけて真剣に挑む選手たちもいれば、ヨット界とのつながりを求めて参加する選手もいる。

こうしたそれぞれの思惑があっても、マッチレースという形式なら楽しさを感じやすい。練習を積んできたチームはレースの序盤から順調に勝ち星を伸ばし、ぶっつけ本番のチームも、レース数が多いので次第に操船に慣れてくる。しかし終盤にはどのチームのレースも形になり、それぞれセーリングに対して新たな楽しさや、手応えを得る。もし悔しさや、やり残したと感じたとしても、翌年再び参加することができるのもポイントだ（もちろん、年齢制限はあるが）。参加者が思い思いにこの大会にやりがいを見出し、それが同級生や後輩たちに伝播し、U25 マッチの魅力は伝わってきた。

本大会を制したのは、慶應義塾大学体育会ヨット部の 470 級の卒部生で結成された〈陸の王者〉（杉若雄山（☆ルビ=ゆうざん）ヘルムスマン）チーム。昨年は同校スナイプ級から構成された〈水の王者〉チームが優勝しており、同大学としては 2 連覇を達成した。

「大学として昨年の先輩に続きたかったのと、〈陸の王者〉としても勝ちたかった。それが達成できてとてもうれしいです」と喜んだ杉若選手。期間中にみるみる上達し、決勝戦では〈若鯨〉チーム（内貴航路朗ヘルムスマン）とのハイレベルなレースを展開した。大会序盤と比べて、次第に表に出てくる感情が大きくなっていた〈陸の王者〉の選手たち。このチームもまた、大会の中でセーリングの新たな楽しさを感じとってくれたのだと思う。

ヨットの楽しみ方は幅広い。若手セーラーを次のヨットの世界につなげていくためには、それを感じてもらうことが重要だ。近年はキールボートシーンで、U25 マッチの経験者を多く見るようになった。U25 マッチは今後も、若手セーラーたちにヨットの楽しさを伝える場でありたいと思う。





チーム名	代表者	所属	所属	所属
チーム名	代表者	所属	所属	所属
チーム名	代表者	所属	所属	所属
チーム名	代表者	所属	所属	所属
チーム名	代表者	所属	所属	所属

チーム名	代表者	所属	所属	所属
チーム名	代表者	所属	所属	所属
チーム名	代表者	所属	所属	所属
チーム名	代表者	所属	所属	所属
チーム名	代表者	所属	所属	所属

チーム名	代表者	所属	所属	所属
チーム名	代表者	所属	所属	所属
チーム名	代表者	所属	所属	所属
チーム名	代表者	所属	所属	所属
チーム名	代表者	所属	所属	所属



下記リンクから ハイライト映像ご覧ください

[Facebook](#)